

《薬局サーベイランスコメント》

『2019年第8週のインフルエンザの推定患者数は約34万人と4週間連続して減少。この減少傾向は継続していくものと予想される』

2019年2月26日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2018/2019年シーズン）の2019年第8週（2月18日～25日）のインフルエンザの推定患者数は、340,050と前週の値（468,652）よりも減少し、4週間連続しての減少となりました（図1）。また、週明けの月曜日（2019年2月25日）の推定患者数は56,912と前週の休日明けであった火曜日の値（91,300）を下回っており、インフルエンザの患者数の減少はさらに継続していくものと予想されます。

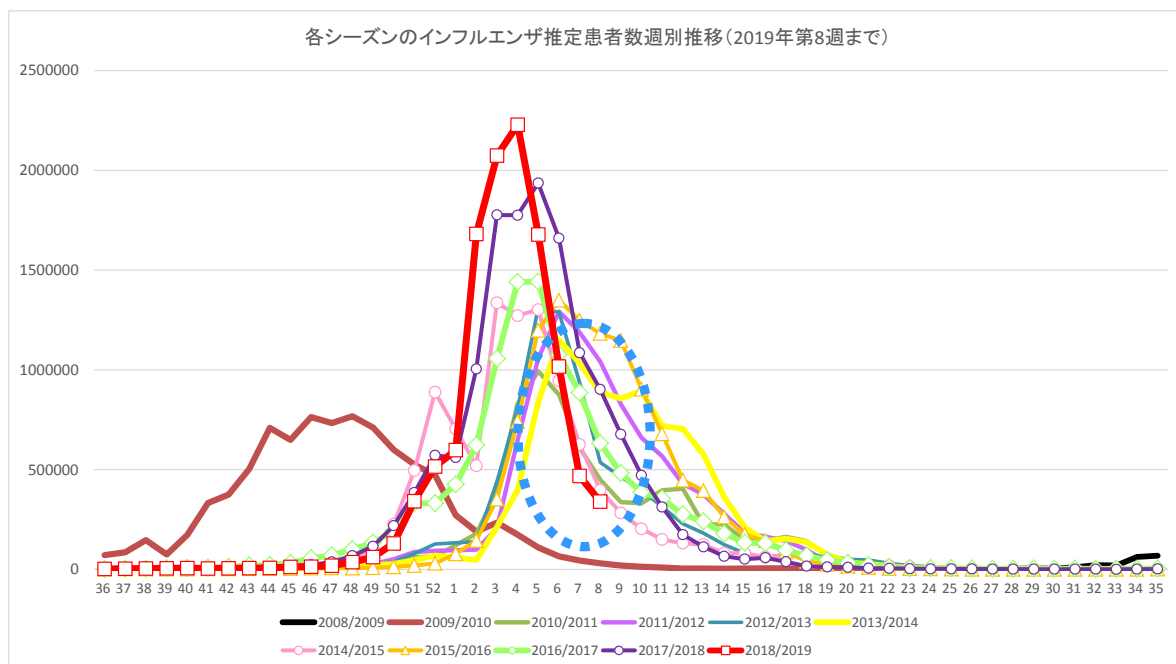


図1. 過去10シーズンと今シーズン（2018/2019年シーズン）の第36～第8週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2019年第8週の推定患者数：340,050）

各都道府県別の第7週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると秋田県、福井県、北海道、栃木県、大分県、の順となっており、2週間連続して47都道府県全てで前週よりも減少が見られました。

各都道府県別の第7週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると福井県、秋田県、山形県、北海道、新潟県の順となっています。

2018 年第 36 週から 2018 年第 8 週までの累積の推定患者数は 11,257,594 であり、2018 年 10 月 1 日現在の人口統計を元にした累積罹患率は 8.88%でした。年齢群別の累積罹患率は 5～9 歳 (29.64%)、10～14 歳 (21.82%)、0～4 歳 (21.03%)、15～19 歳 (11.57%)、30～39 歳 (9.36%)、20～29 歳 (8.74%)、40～49 歳 (8.23%)、50～59 歳 (6.70%) の順となっていて、例年と比べると成人層の罹患率が高くなっています (図 2)。

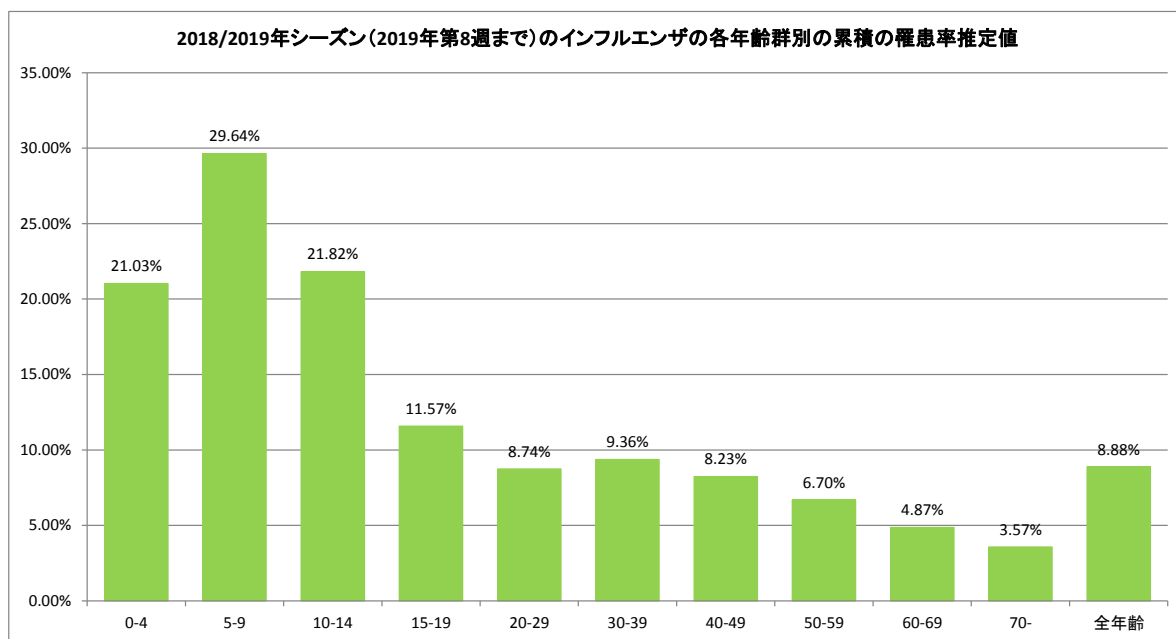


図 2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値 (2018 年第 36～2019 年第 8 週、累積推定患者数=11,257,594)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス (2,917 検体解析) は、A/H1pdm が 52.9%と多く、次いで A/H3 (A 香港) 亜型 45.6%、B 型 1.5%の順となっている一方、1 月に入ってから A/H3 (A 香港) 亜型の検出数が半数以上を占めている状態が続いています (図 3)。

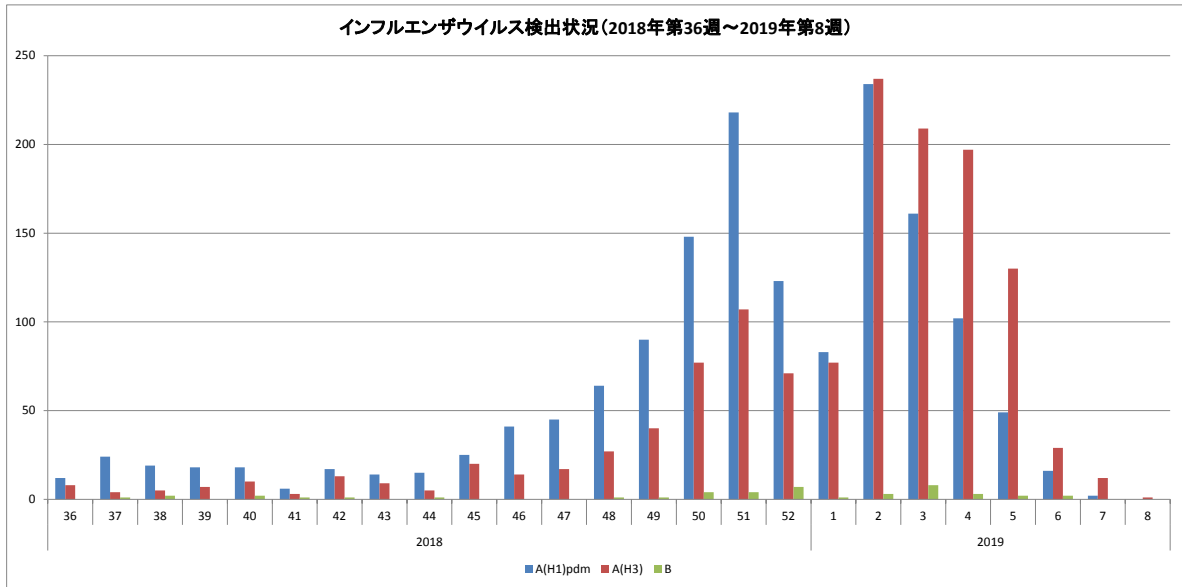


図 3. 国内のインフルエンザウイルスの検出状況の週別推移（2018 年第 36 週～2019 年第 7 週；国立感染症研究所病原微生物情報 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html> より得られたデータを解析）

2019 年第 8 週のインフルエンザの推定患者数は約 34 万人と 4 週間連続して減少がみられています。患者数の減少傾向は今後の継続していくものと予想されますが、まだインフルエンザの流行状態は継続しており、今しばらくは注意が必要です。